

## 事業目標

### 「次世代へつなぐ活動基盤の構築と強化」

昨年度は周年事業を通して、山科醍醐こどものひろばのこれまでの振り返りました。その中でこれまでのつながりを再確認し、会員や支援者、そして地域社会との信頼関係をいかに維持・発展させるかを考えてきました。そして今、私たちが取り組むべきことは、次の 5 年を見据え、これからをつないでいくために「次世代へのバトンタッチ」を行なっていくことではないかと思います。そのため本年度は、未来の担い手や支援者が参画しやすい環境を整えることを目標とします。

これまで積み重ねてきたものを、次の世代につないでいくために次の 3 項目に取り組んでいきます。

1. 子どもの体験活動の継続実施
2. 情報発信の強化
3. 継続した運営財源の確保

#### 1. 子どもの体験活動の継続実施

コロナ禍が明けてから、事業目標の一つとして、子どもの体験活動の充実を挙げてきました。活動を再開し、少しずつ拡大をしていく。現状維持に留まった年度もありましたが、一歩ずつ歩みを進めてきました。そして昨年度は、周年事業としてこどもフェスタ、交流会の開催、夏の日帰りキャンプの実施をすることができました。また、わんぱくクラブも継続実施しています。体験活動の充実という点では、目標を達成しつつありますが、今年度は単発の実施では終わらずに継続実施が出来るように計画、実施していきたいと思えます。また、今年度は町たんけんを再開予定です。子どもたちの「やりたい」だけでなく、誰かの「やってみたい」も形にできるようにサポート体制を作っていきます。

#### 2. 情報発信の強化

昨年度 note の開設を行ないました。これまでは、寄付キャンペーンを実施していたということもあり、子どもの貧困対策事業に関しての投稿を多く行なってきました。今年度は、げんきスポット 0-3 などの各活動からも投稿するだけでなく、「ひろばと私」というテーマで様々な視点からご寄稿いただいき、コンテンツを増やしていきたいと思えます。情報発信を強化することによる、山科醍醐こどものひろばを知ってもらう機会を創出し、ファンの獲得をしていきます。「知る」から「支える」に移行してもらえるように多くの情報を発信していきます。

#### 3. 継続した運営財源の確保

これまでの赤字決算により、法人の財産は大きく減少してきました。また昨年度は、決算払いに対応できる資金がなく借入が増加しています。年々拡大する最低賃金の上昇や物価の高騰に対応していくには、現状の収入、財産では追いつかない状況となっています。そのため、充実した活動を実施することで価値を生み出し、「情報発信」によってその価値を社会へ拡散し、それによって得られた「財源」を再び活動へ還元していくことにより、借入を行なわなくても、法人運営が行なえるように、財務の安定化を目指していきます。

第28年度(2026年度)各事業計画(1)

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	予算額 (千円)
舞台芸術 鑑賞活動	-	-	-	-	-	-
子どもが自 ら創る体験 活動事業	こどもフェスタ 小規模で子どももおとなも楽しみ、 交流できる祭典を実施する。	秋頃	山科青少年活動 センター	50人	地域の 子どもと大人 100人	120
	子どもの体験活動事業 子どもたちの体験活動(野外体 験)を実施する。	通年	地域一円	5人	子ども:80人	250
	わんぱくクラブ 幼児・低学年部の子どもたちを対 象に、野外活動などを実施する。	通年	みささぎの森他	5人+ボラン ティア	就園児年少から小 学3年15人	192
子育てサ ポート事業	げんきスポット0-3(げろさん) 未就園児を持つ親と、その子ども 達のサポートを常設会場「げんき スポット0-3」にて実施する。屋根 のある公園を目指す。 充実事業の委託として げんきス ポット0-3を飛び出して地域の場 での支援を行う。 ※京都市の委託事業	毎週火～土曜日	げんきスポット0- 3	12人	地域の 子どもと大人 のべ6500人	8984 (委託金8814)
	楽習サポートのびのび 集団活動が苦手な子どもや、学習 機会の少ない子ども、また経済的 等の理由で体験活動の機会がな い子どもへの個別(生活・学習・余 暇)支援事業。	通年	地域一円	-	-	-
	子どもの貧困対策事業 集団活動が苦手な子どもや、学 習機会の少ない子ども、また経済 的等の理由で体験活動の機会が ない子どもへの個別(生活・学習・ 余暇)支援事業。コロナ禍の影響 を受けた家庭に食材・衛生用品の 配布支援も実施する。 ※京都地域創造基金事業指定助 成事業 ※近畿ろうきん「笑顔プラス」寄付	通年	地域一円	5人	地域の子ども: のべ300人	1670 (助成金800)
	山科醍醐地域ひとり親家庭等へ の生活・学習・居場所サポート事 業 伏見区醍醐・小栗栖地域を中心 に、小学校高学年の子どもとその 家族へのサポートを行う。 ※京都府委託事業	通年	地域一円	5人	子ども: のべ300人 保護者: のべ15人	9400 (委託金9400)
ボランティ アサポート 事業	ボランティア・研修部 ボランティア希望者の、各事業へ のコーディネートを行なう。 ボランティア活動に参加する際 の、子どもとのかかわり方や、参 加者が希望する内容の研修会を 定期的実施する。	通年	当法人事務所	4人	-	-

第 28 年度(2026 年度) 各事業計画(2)

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	予算額 (千円)
ボランティア サポート 事業	講師派遣・インターンシップ受入 事業 当法人スタッフの講師派遣及び当 法人におけるインターン希望者の 受入を行う。	通年	地域一円	4人	—	500
	<u>のびのび@たいむ</u> のびのび事業の利用を終えた高 校生等の居場所とボランティア推 進事業。	通年	地域一円	2人	—	—
広報・出版 事業	<u>ひろばつうしん</u> 会員向け情報誌「ひろばつうしん」 の発行。 イベントや活動の参加募集チラ シ、外部団体のチラシなども発 送。	月刊	—	—	100部を12回	—
	<u>コッペパン</u> 広報誌「コッペパン」の発行。	不定期	—	—	—	—
	<u>ひろばの本</u> 「貧困とひとりぼっちのないまち」 「まちのこどもソーシャルワーク」 の頒布を通じて、ひろばの広報や 社会への啓発を進める	通年	—	—	—	—
	<u>サポートBOOK</u> 「子どもの貧困課題に地域で取り 組む支援者のアクションサポート BOOK」の頒布、活用。 読書会の開催。	通年	—	—	—	—
	<u>ホームページ</u> 当法人におけるホームページの 定期的な更新情報の発信及び、 基本情報の公開を行う。	通年	—	—	—	—
	<u>分野連携ボランティアネットワー クづくり事業</u> 当法人登録ボランティアと子ども 分野の活動団体とのネットワー クづくりを行う。	通年	—	—	—	—
ネットワー クづくり事業	<u>山科子育て応援団</u> 社会福祉協議会を事務所として 山科で子育てサークルや子育て 支援をしている諸団体との交流を 行う。子育て支援サロンを開催す る。	通年	社会福祉協議会 他	—	—	—
	<u>中学生勉強会(おぐりす・だいご・ 醍醐支所)</u> 生活保護受給者等中学生学習支 援プログラム。 ※京都市ユースサービス協会委 託事業	通年	醍醐事務所 トトハウス 醍醐支所	7人	おぐりす5人 だいご5人 醍醐支所15人	2713 (委託金2713)
	<u>みんなの家</u> フリースペースとして開放。 (主催:社会福祉協議会)	第1、第3、第5 月曜日	こども生活支援セ ンター	—	—	—
	<u>ゆうすぺーすやましな</u> 山科区役所の一角を使用しての フリースペース、自習室の運営 ※京都市ユースサービス協会委 託事業	毎週金曜日	山科区役所	3人	登録100人	1700 (委託金1700)
	<u>企業との連携</u> 企業からのボランティア体験の受 け入れや、イベントでのボラン ティア呼びかけなど。	通年	—	—	—	—